

市政モニター「くるモニ」アンケート実施結果 (全体版)

実施概要

○調査対象者:

市内在住の満 18 歳以上の市民から選任したモニター

○実施方法: インターネット調査

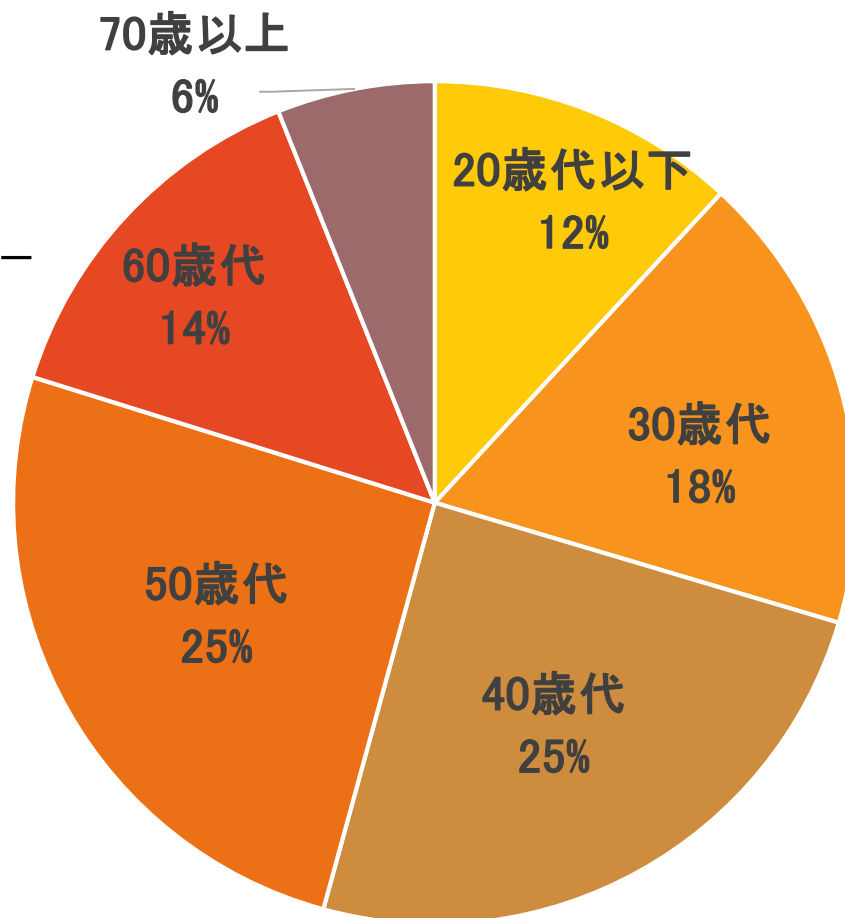
○実施時期: 令和 6 年11月8日 ~ 11月21日

○サンプル数: 599

○回答数: 446 (74.5%)

■ 性別

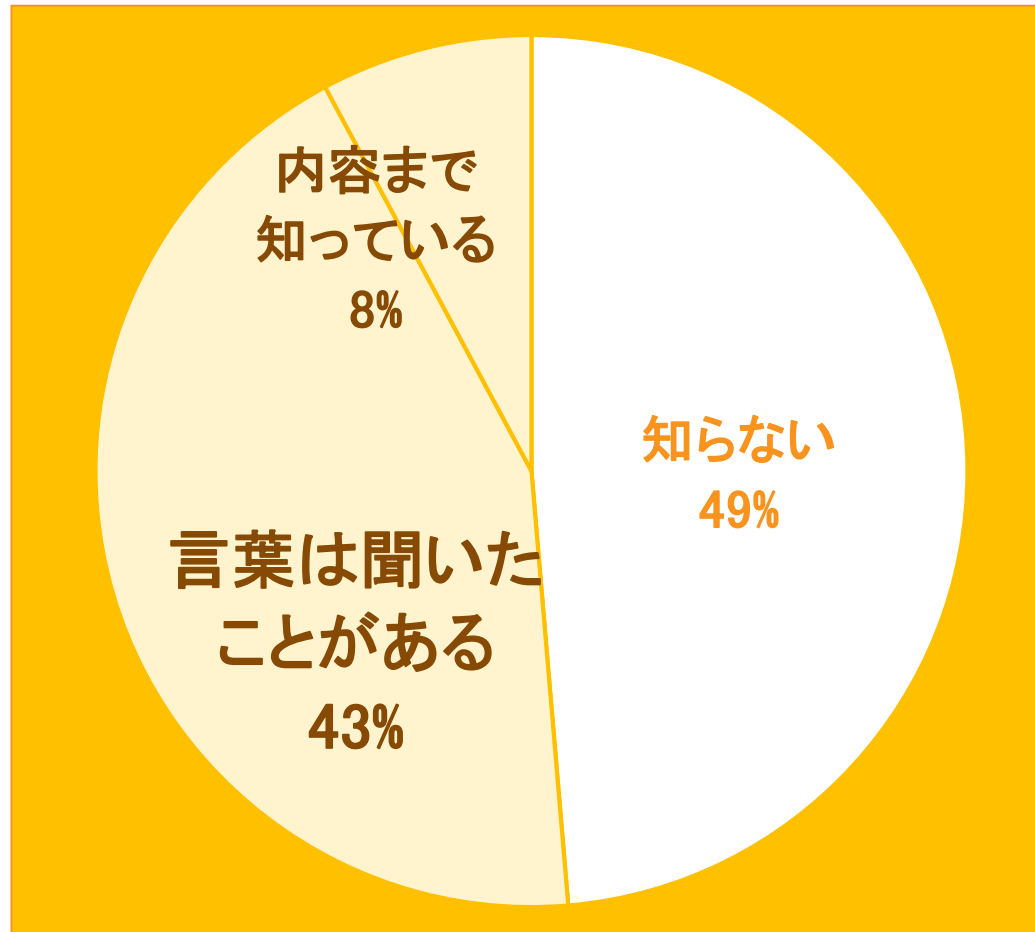
	人	(%)
男	203	45.5
女	242	54.3
()	1	0.2
合計	446	100



結果のポイント

- ◆ 「地域共生社会」の言葉の認知度は5年間で微増。(p5)
- ◆ 「支え合いや助け合いが充実しているまち」の実現には、日頃からの近所付き合いや見守り、いざという時の安心感が重要。居場所や市民活動の活発さも要素になっている。(p4)
- ◆ 家族やサービスがあることで「地域での支え合いや助け合いは必要ない」という人がいる。(p5)
- ◆ 災害時に地域で必要なことは「地域の避難行動に支援が必要な人の把握」と考える人が最も多く、避難行動要支援者名簿や図上訓練の一層の活用可能性がある。(p8)
- ◆ 8割以上の人が、災害時には「自分にできることはしたい」という意識がある。(p9)
- ◆ 「自分の居場所」と思える場や活動があると応えた人は全体の3割で、「友人との集まり」や「学校・職場」を「居場所」と感じている人が多い。(p10)
- ◆ 市民活動への参加は、身近な人に誘われたことをきっかけとする人が多い。参加していない人は、「時間に余裕がない」ほか、「きっかけがなかった」「一人では参加しづらい」という人も多い。きっかけづくりや、一人でも参加しやすい工夫が必要。(p11,12)
- ◆ 非行や犯罪をした人の立ち直りには「就労支援」が必要と考える人が多い。非行や犯罪をした人の立ち直りに協力したいという人は4割弱いる一方、協力したくない人は4割強おり、「関わるのが不安」と考える人も多い。(p13,14)

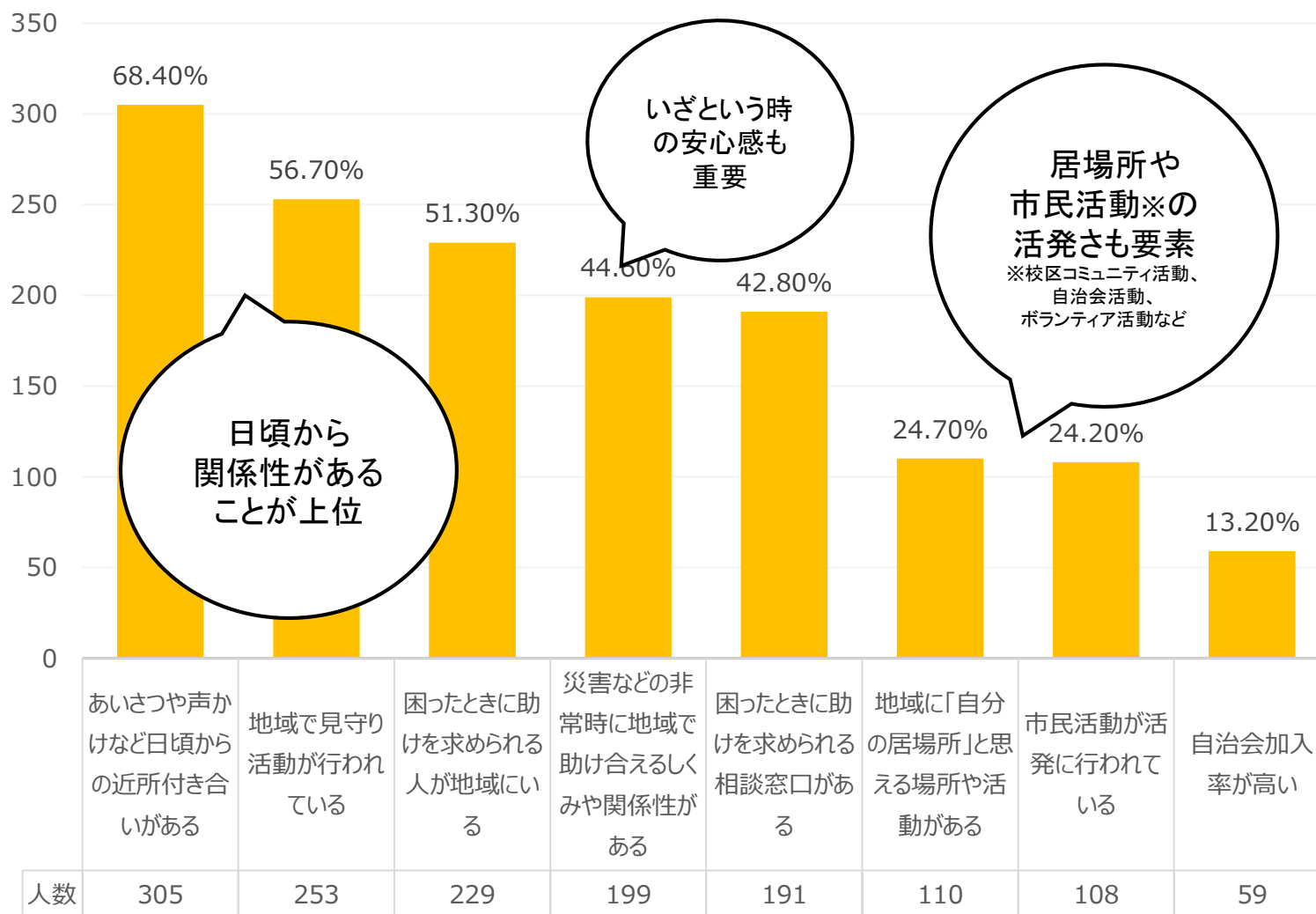
「地域共生社会」の認知度



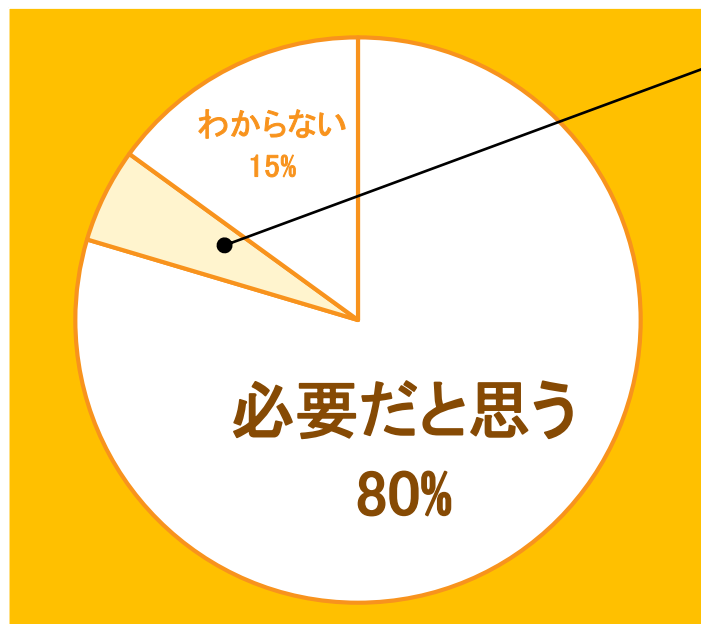
「知っている」
「聞いたことがある」が
51% (229人)。

H30(2018)年調査時
の49.2%から微増。
(1.8%増)

「支え合いや助け合いが充実しているまち」とは



地域での支え合いや助け合いの必要性



必要だと思わない 5% (24人) 理由 (複数回答)

家族で十分である (15人)

専門職、制度やサービスで十分である (11人)

地域や近所の人と関わり合いを持ちたくない (10人)

必要性を感じた経験がない (8人)

地域や近所の人には知られたくない (4人)

地域や近所の人をあてにならない (4人)

地域や近所の人に迷惑をかけたくない (3人)

◇必要だと思わない意識には、家族やサービスがあることが前提に。

◇「地域や近所の人には知られたくない」と思っている人がいることにも配慮が必要。

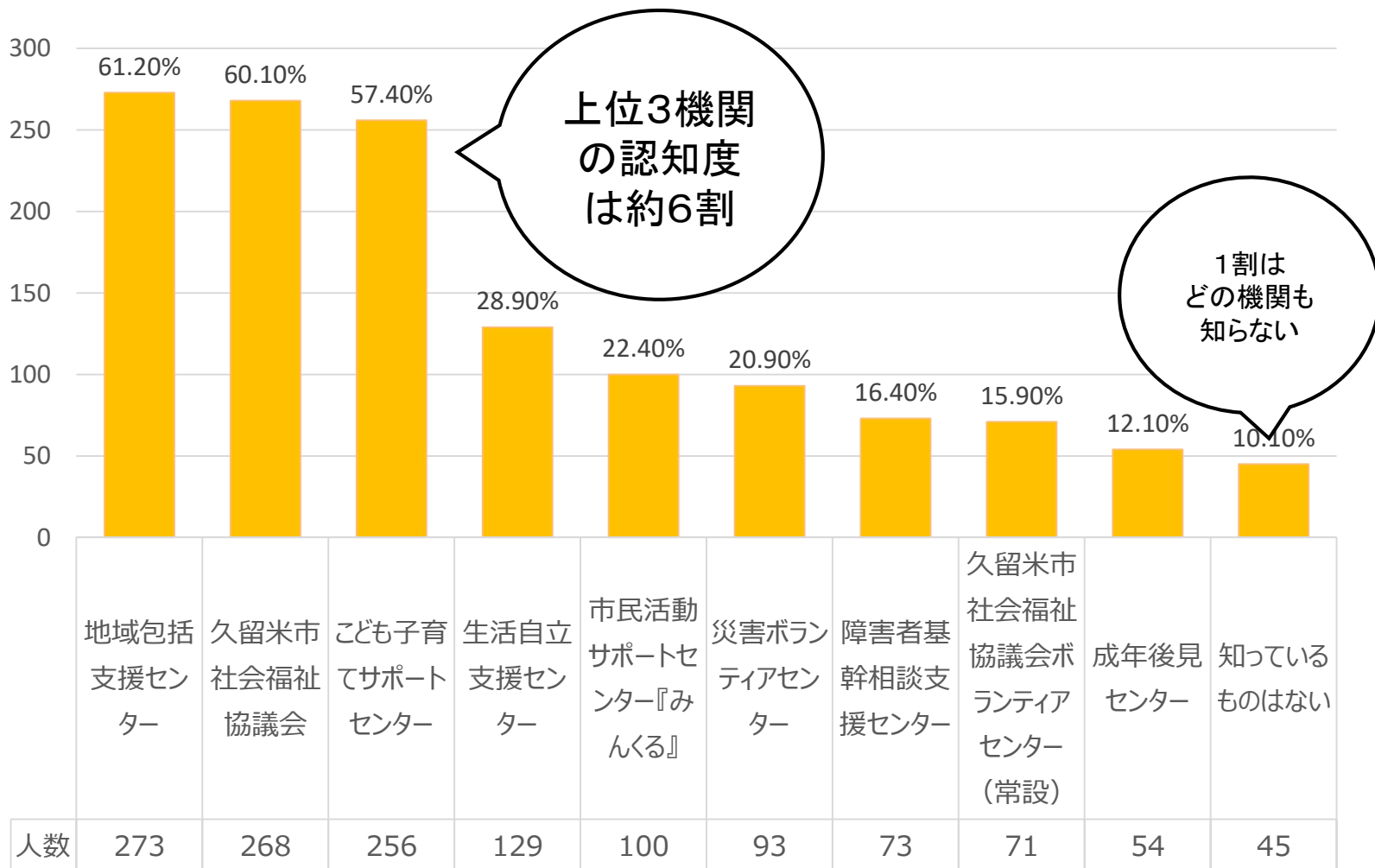
◇「地域や近所の人に
迷惑をかけたくない」
は40代男性

人を頼り
にくい
意識？

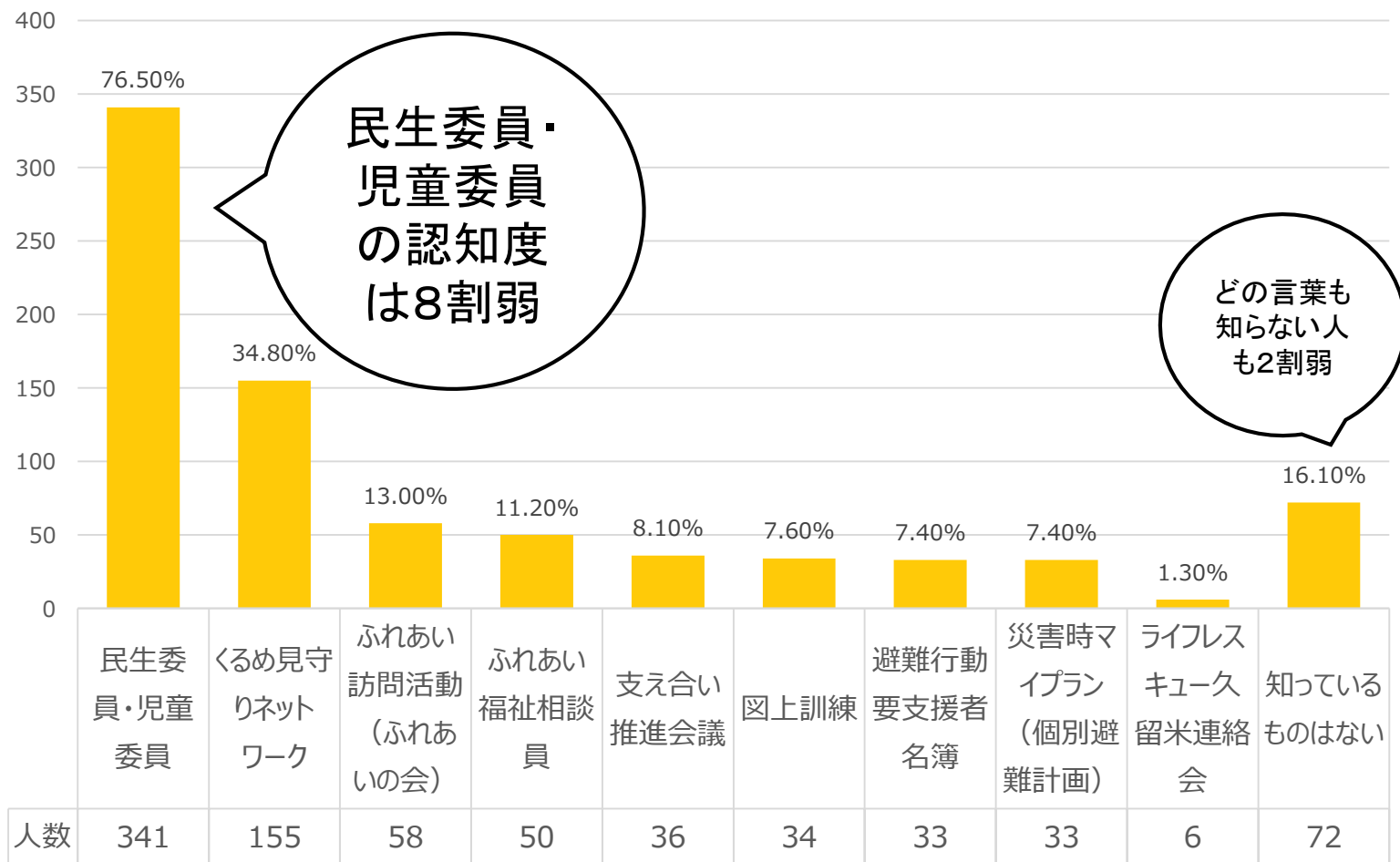
◇「関わり合いを持ちたくない」
と回答した人のうち6割は、
災害時、地域での活動に
「必要に応じて協力したい」

必要性
次第

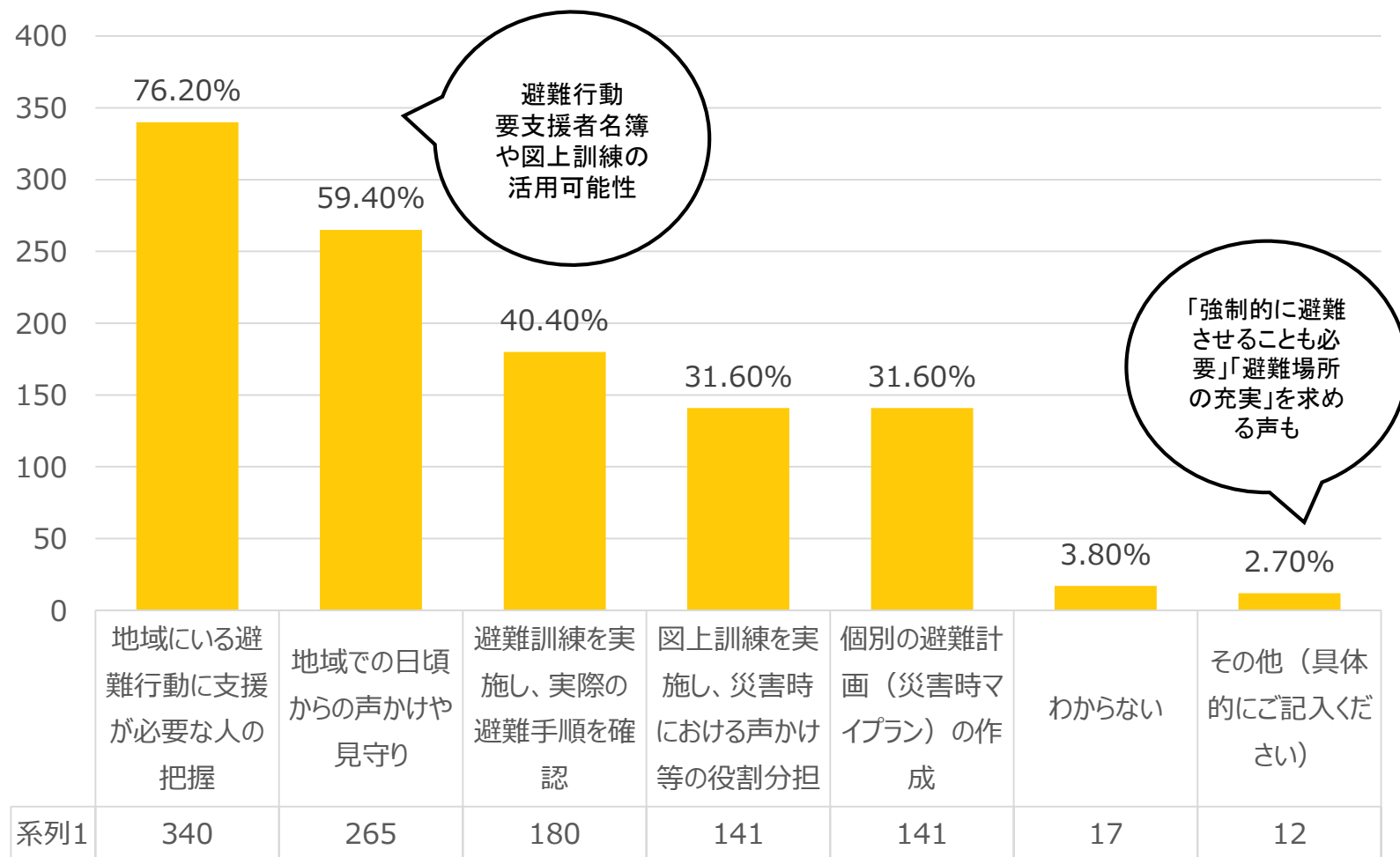
知っている機関



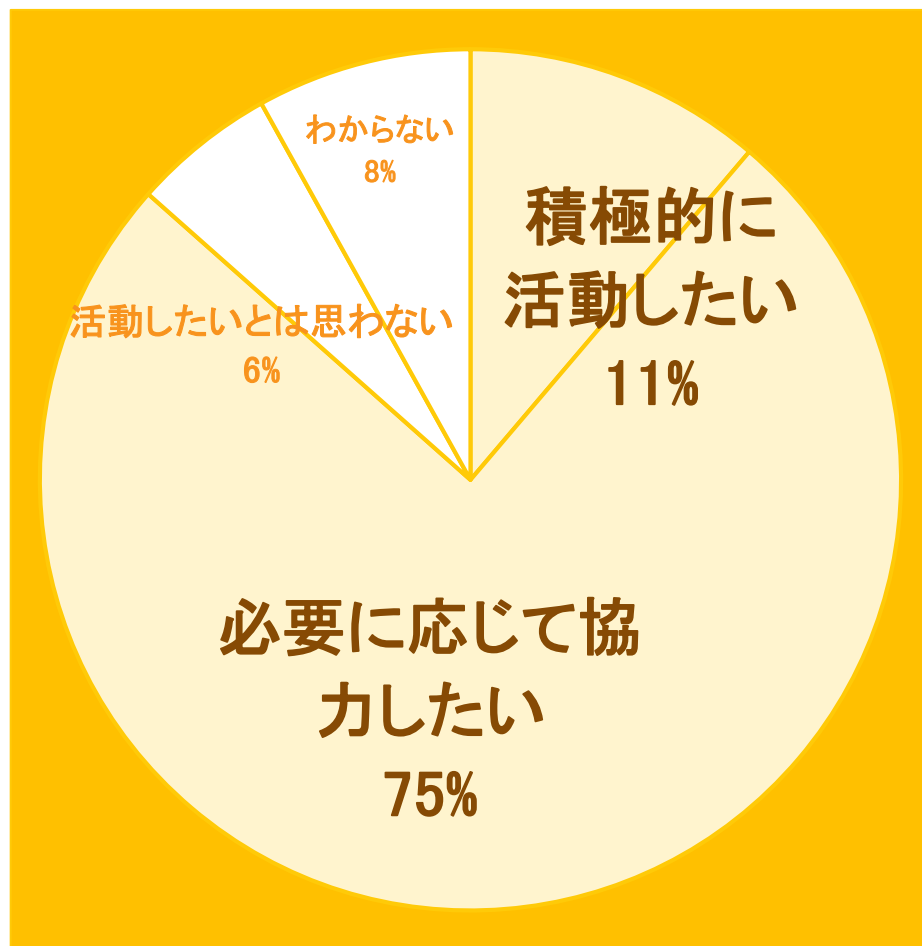
知っている言葉



災害時の避難行動に支援が必要な人の支援に必要なこと

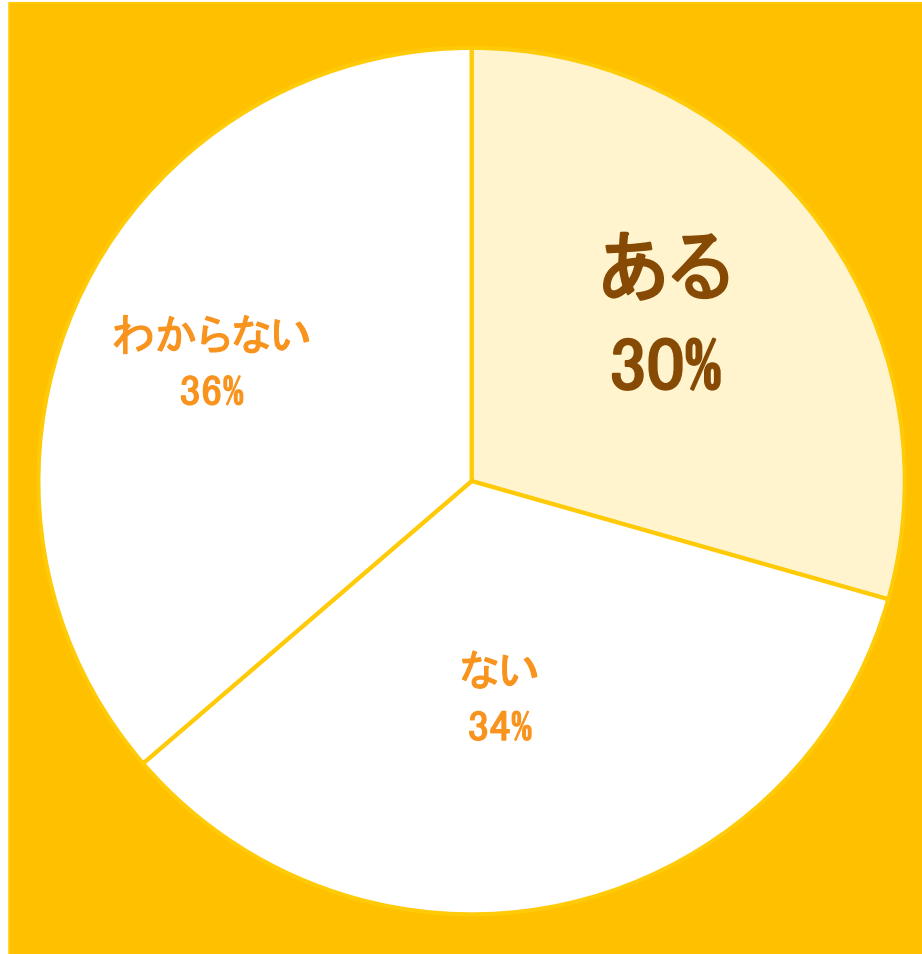


災害時、地域での安否確認等の声かけや避難所の手伝いなどの活動をしようと思うか



8割以上の方が、
災害時には「自分に
できることはしたい」
という意識がある。

「自分の居場所」と思える地域のか場や活動



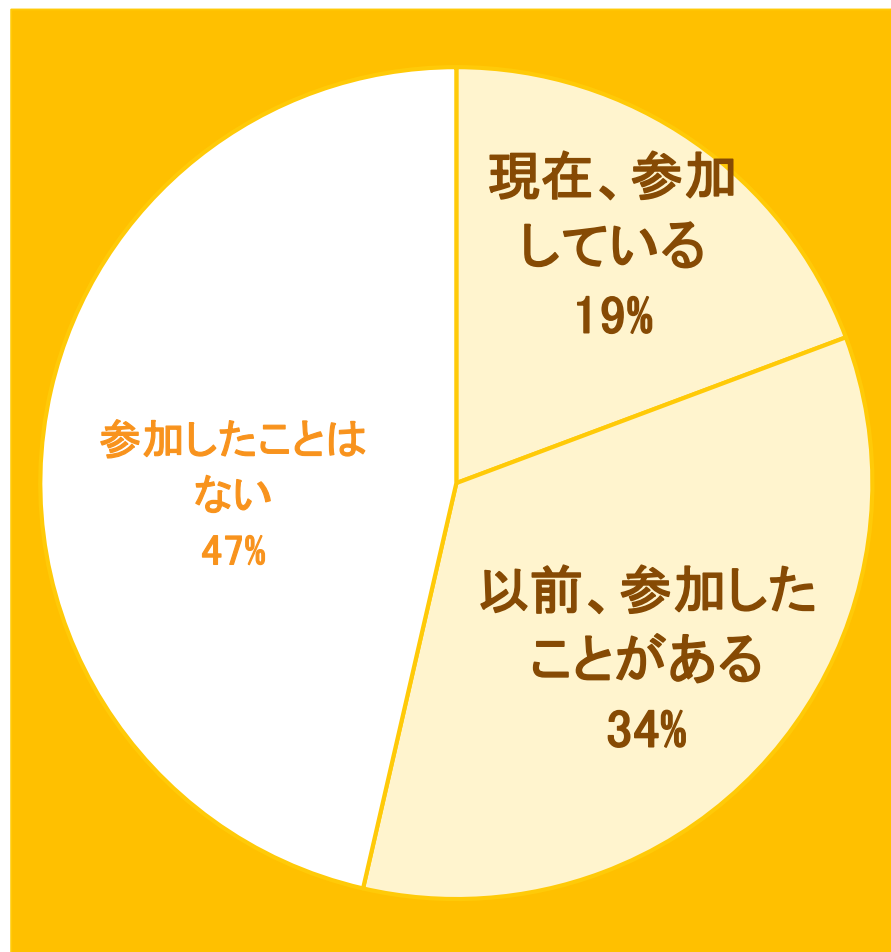
第1位 友人との集まり
(50.4%)

第2位 学校・職場
(45.0%)

第3位 自治会活動
(32.1%)

ほか、校区コミュニティ活動(17.6%)
市民活動(13.7%)
商業施設(13.0%)
公共の場(12.2%)
生涯学習活動(8.4%)など

地域の活動やボランティア活動などへの参加状況



参加したきっかけ

第1位 地域や近所の人に誘われた (49.0%)

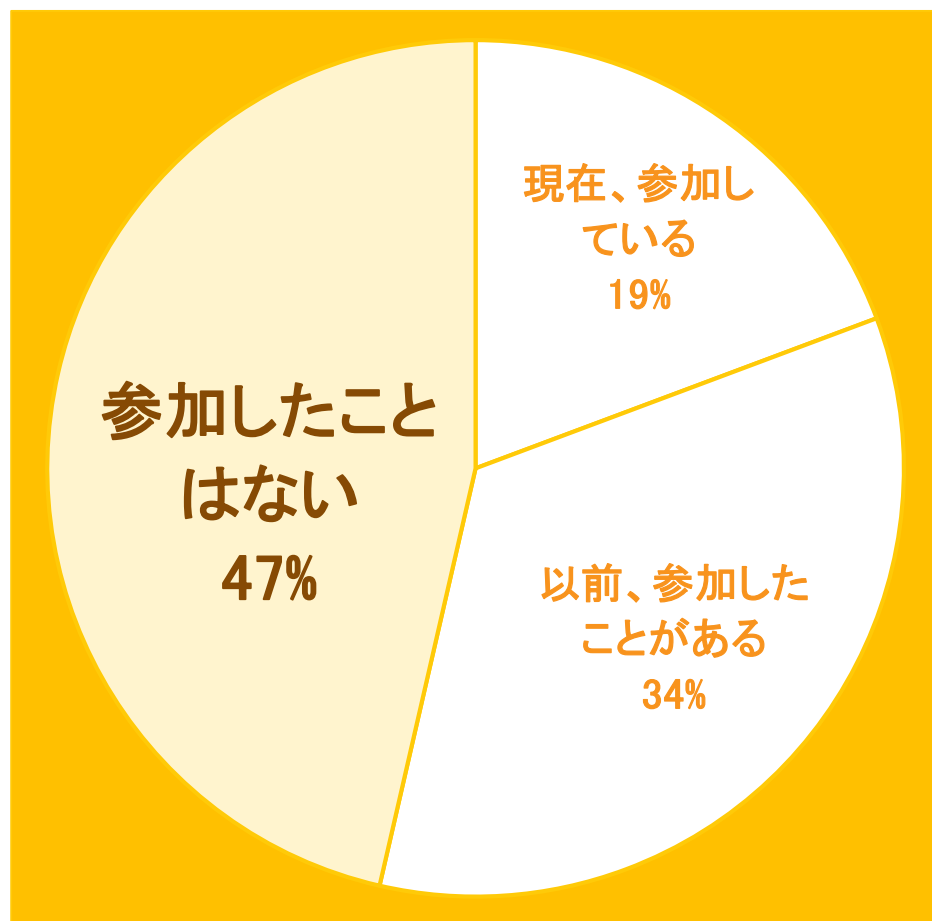
第2位 家族や友人に誘われた (28.5%)

第3位 自ら興味を持って (17.6%)

イベント等に参加して興味を持った (14.2%)
SNS等で興味を持った (10.9%)

その他、「地域の役員で強制的に」という人や
「子ども会がきっかけ」という人もいる

地域の活動やボランティア活動などへの参加状況



参加したことがない理由

第1位 時間に余裕がない
(54.6%)

第2位 きっかけがなかった
(49.3%)

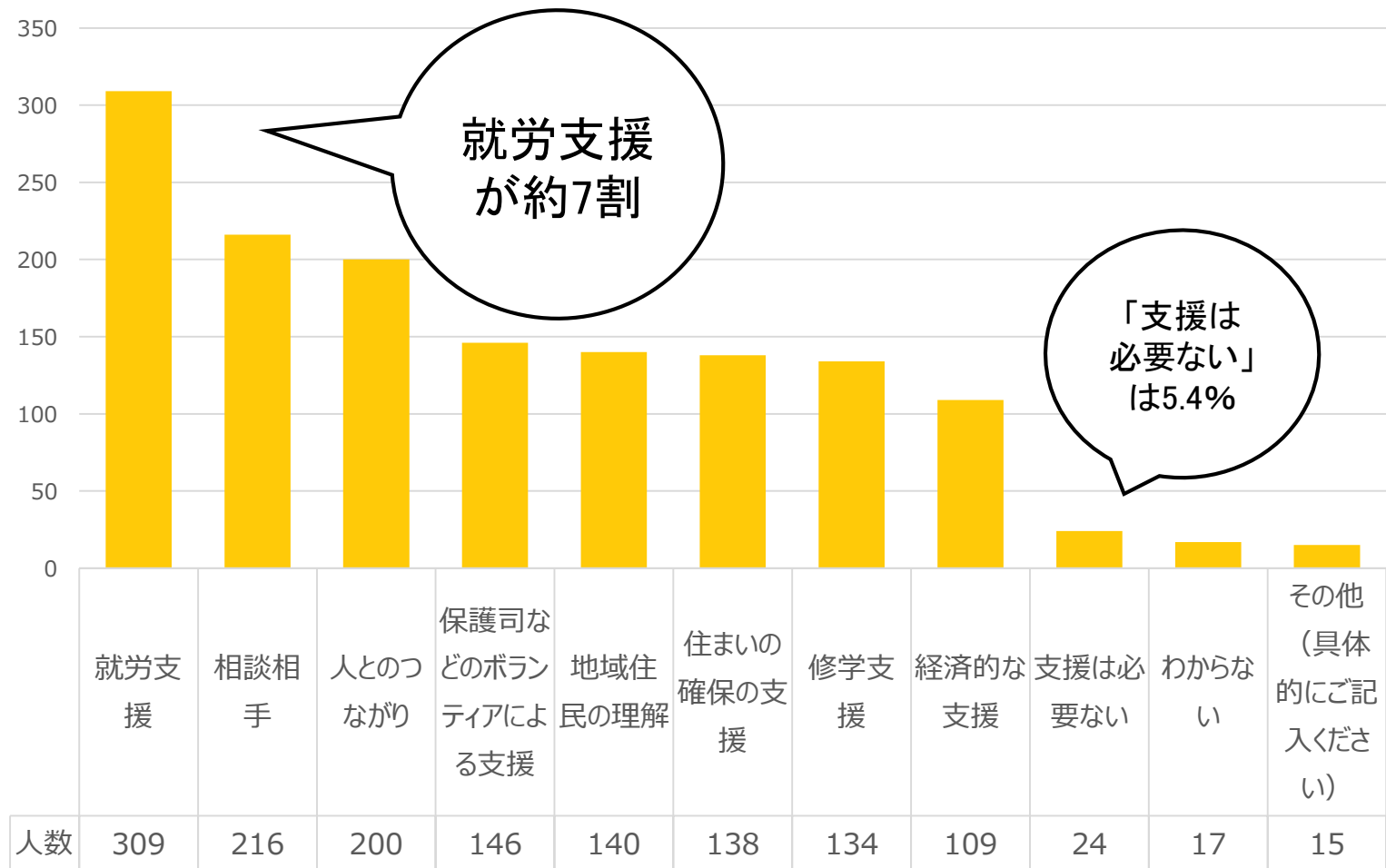
第3位 一人では参加しづらい
(37.2%)

第4位 情報を知らない
(35.7%)

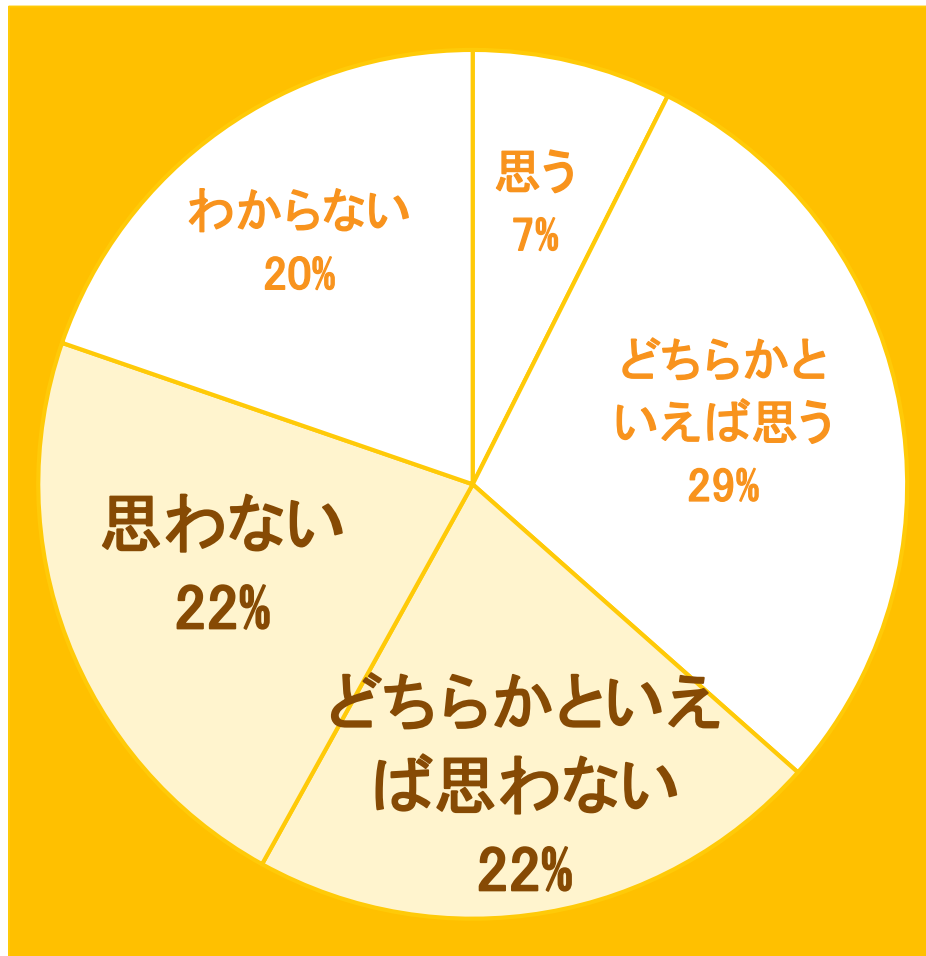
興味関心がない(9.2%)

関わりたくない(4.3%)は少数派
参加したくても、「外出が難しい」
「移動手段がない」という声も

非行や犯罪をした人の立ち直りのために必要なこと



非行や犯罪をした人の立ち直りに協力したいか



協力したくない理由

- 第1位 関わることが不安 (56.4%)
- 第2位 関わりたくない (45.1%)
- 第3位 接し方がわからない (42.1%)
- 第4位 時間に余裕がない (37.4%)

支援の具体的なイメージがわからない (30.8%)
国や地方公共団体などがすべき (14.4%)
支援をすべきではない (10.8%)
関心がない (10.3%)

「本当に反省しているのかわからない」
「加害者への支援は理解できない」
という意見もある